

## 受講生の声!!! H29 年度受講生から



東京医科歯科大学大学院 救急災害医学分野 大学院生  
遠藤 英樹 (医師)

本養成講座では、公衆衛生大学院で学ぶような統計・疫学などとは異なり、より実践的に現場を改善していくためのスキルを学ぶことができ、明日からの現場のマネジメントに活かせるヒントを大いにご得ることができました。医療の質改善において、データで物事を判断することは必須ですが、データ収集に多大な時間や労力をとられるため、実際に医療の質改善を始めようとするハードルとなることがあります。しかし、DPCのようにすでに収集されたデータから医療の質改善を始めたいのは、おそらく现阶段で最もハードルの低いやり方であり、そのやり方を学べたことは非常に有意義でした。もし現場で医療の質改善をうまく始められないとお悩みの方がいらっしゃるのであれば、本養成講座は突破口となると思いますので、受講をおすすめいたします。

また、本講座には様々な職種の方が参加しているため、医療の質を考えるにあたり、様々な視点にふれ意見交換ができたことは非常に有意義でした。質改善が医療に十分浸透しているとは言えない中で、同じ方向性を持った受講生と交流を持って非常に勇気づけられました。

最後に、私のような大学院生にも聴講の機会を与えていただいた講師の先生方に改めて感謝を申し上げます。ありがとうございました。



李 慶姫 (歯科医師)

やはり受講して良かった、終わってみれば4月の時よりも格段に成長した自分がある、というのが修了しての実感です。他分野からの受講は勇気のいるものでしたが、質の向上・安全管理に分野の壁はない、と信じて叩きました。

このプログラムでは、「データの分析手法のいくつか」と「PDCA サイクルを現場へ馴染ませて行くことの難しさと工夫」を教わります。一つの手法を教わっては課題発表、また教わっては課題発表、の繰り返しは目まぐるしく、このまま本当に夏を越えられるのかしらと些か不安になったところで、実際PDCAを導入し継続運用している病院へ伺います。訪問先で包み隠さず運用の現場を見せて頂くことは、データ分析がPDCAの山場だと勘違いし始めていた頭を見事に砕いてくれました。「一度やって終わり」ではないPDCAをどうやって構築するか、そのヒントは既に携わっている先輩方が知っています。そうやって最終課題の発表日を迎える一年の終わりには、春のスタート時よりも一回り以上成長したことを実感しました。

とはいえ分析技術はまだ未熟です。運用する力も足りないかもしれません。しかしその技術と運用力のバランスと根気が大切なのだという芽まっしかり植え付けて頂いた気がします。

今後も多くの現場でたくさんの医療データが蓄積されます。PDCAサイクルの運用によって、患者だけでなく医療従事者たちも守られ支援されるものであるという理解を得ながら、一医療従事者として関わり貢献して行きたいと考えています。

一年間ありがとうございました。良い仲間と素晴らしい先生方に恵まれました。



東京都健康長寿医療センター 総務課総務係  
鈴木 崇信 (病院事務)

本コースは、DPCデータを中心とした診療データの分析と可視化を体系的に学べるだけでなく、PDCAサイクルを主眼とした課題のプレゼンテーションとディスカッションもあり、現場に応用ができる実学です。特に、様々な職種の医療従事者とのディスカッションは、自分とは違う視点に気づかされ、非常に新鮮で貴重な機会でした。

また、病院実習ではPDCAサイクルが行われている組織文化を肌で体験することができ、非常に良い経験となりました。

私は総務課に所属しており、診療データを分析する機会はありませんが、院内で医療安全の方とインシデント分析に関わることや、医師を評価するための指標の作成等、本コースで学んだ診療データを可視化する機会がありました。PDCAサイクルの組織文化の醸成とマネジメントができる人材として貢献できるよう、学んだことを活かしながら日々精進してまいります。

NTT 東日本関東病院 品質保証室 (QI 室)  
松本 聡子 (精神保健福祉士)

私は2016年4月から、医療の質や Quality Indicator (QI) に関する業務を担当しています。大学院在学中より今日に至るまで、臨床スタッフの一員や大学教員や研究員として医療や病院に関わってきたものの、クオリティマネジメントについて体系的に学んだことは無く、QI 室員として必要な知識が不足していることを痛感する日々でした。そんな中、受講生募集の案内を発見し、貴重な1年間を過ごさせて頂くこととなりました。

1人1台のノートパソコンを用いた恵まれた学習環境と豊富な実習時間、そして先生方の丁寧なご指導により、毎回たくさんのことを学ばせて頂きました。どの講義もとても実践的な内容で、そのまま業務に活かすことができました。平日夜の開講という点も、仕事や家庭との両立という点で大変助かりました。

本講座の受講により、QIを用いて当院の医療の質を可視化し、改善につなげるための道筋が明確になったように思います。先生方にはこの場を借りて感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

3DIT 株式会社 メディカル事業部  
吉田かおり (診療情報管理士・医療情報技術師)

診療情報管理士は、毎日院内の様々なデータを扱う機会に恵まれます。しかし触れているデータから生まれる、数多くの漠然とした疑問点や興味関心をどう形にすればよいか分からず、歯痒い思いをするばかりでした。

そんな中で受講した本講座は、一人で悩んでいたことを一つ一つ解きほぐしてくれるような、充実したカリキュラムが組まれています。データ分析の基本から、院内課題の改善計画立案まで、医療機関で直面する多くの壁について順序立てて解説いただき、受講することで、これまでの自分の経験に色がついていくような充実感、そして「医療の質」という病院全体を考える新たな視点を持つことができました。特にデータ分析で問題点を抽出したのち、どう改善活動につなげていくかの手法について、実際に院内でPDCAサイクルを回していくイメージをつかむことができたことは、大変勉強になりました。開台時受業のスピードや課題発表についていけるか不安でしたが、同期のメンバーのがんばる姿に励まされ、なんとか最終発表までたどり着けたと感謝しています。

今後は、複数の病院と関わる機会の多い現在の業務の中で、病院ごとに抱えている沢山の課題に直面した際、客観的なデータ分析や改善手法を交え少しでも力になれるよう、受講の経験を活かしていきたいと思っております。

丁寧にご指導頂いた先生方と、あたたかい同期の皆様と、心からお礼申し上げます。ありがとうございました。